

第 396 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 5 年 11 月 7 日 (火) 11:00~13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 委員 角田哲康
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
委員 小野晃司
[会社] 取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明
4. 事務局報告 ○ K-MIX の、上半期のトピックスと下半期の予測を報告
5. 諮問
事務局より ①日本民間放送連盟(民放連)放送基準改正に伴う、
K-MIX (静岡エフエム放送) 番組基準の一部変更を、
K-MIX 番組審議会に諮問するに至る経緯説明。
② 民放連 放送基準の概要説明。
③ 民放連 放送基準 2024 年改正の経緯を説明。
④ K-MIX 番組基準で準用する民放連放送基準 2024 年改正の
内容を説明。
⑤ K-MIX 番組基準の変更が妥当かどうかの審議を委員に依頼。
6. 審議
K-MIX (静岡エフエム放送) 番組基準の変更が、妥当かどうか
を審議。
7. 答申
委員より K-MIX (静岡エフエム放送) 番組基準の変更が、
妥当であると答申があった。
8. 番組聴取 [番組名] 環境のミカタ presents
「Show WA! トレジャーニー」
[放送日時] 令和 5 年 5 月 21 日(日)19:00~19:55
[出演者] バカボン鬼塚 Happy だんばら
9. 番組審議 [番組名] 環境のミカタ presents
「Show WA! トレジャーニー」
[放送日時] 令和 5 年 5 月 21 日(日)19:00~19:55
[出演者] バカボン鬼塚 Happy だんばら

[番組内容] トレジャーニー…それは、トレジャーとジャーニーを組み合わせた、過去のお宝を巡る旅である。そこには人々の思い出と未来への夢が詰まっている。そんなトレジャーニーに果敢に挑む会社があった。過去のお宝を求め、タイムトラベルする「タイムトラベルハンター社」である。メンバーは、過去のお宝に詳しいバカボン鬼塚社長、そして中途半端な知識の平社員 Happy だんばらの2人。今日も「タイムトラベルハンター社」がトレジャーニーを求めて過去にタイムトラベルする。

[聴取・合評での主な意見]

小野委員

これまで局の若手の女性と組んでいる例が多かったバカボン鬼塚が、今回は Happy だんばらと組んで男性トークを展開しているが、バカボン鬼塚がこれまでも増して、生き生きとしていると感じた。昭和時代の話も豊富で、バカボン鬼塚の得意分野であると思う。また、Happy だんばらは明るいトーンで、トークを前に進める力があり、バカボン鬼塚の相方として、良いと思う。番組のテーマの「昭和」は、共感できる聴取者も一定数いると思われるので、月に1回の番組は楽しみに出来たと思う。

加藤委員

率直に「番組が面白く、楽しく聴くことができた。」やはり、バカボン鬼塚が生き生きしている。さらに、内容的に、番組冒頭から高めのテンションでトークをスタートできていること、Happy だんばらもバカボン鬼塚のトークにうまく乗ることができていて、お互いが、良い感じでトークが展開できている。幅広い世代が絡むことができるトークも良く、番組内のお知らせも、環境にちなんだ少し難しい内容を問題にした「クイズ」形式ながら、楽しく聴くことができる上に、クイズの答えを導き出すコツも教えてもらえるあたりが、興味深い。クイズを出題するスポンサー企業の担当者も、絶妙なトークを聴かせてくれていて、バカボン鬼塚が、それをうまく引き出している。

服部委員

バカボン鬼塚・Happy だんばらが共に、楽しみながら、番組を進めて行くので、聴取者も引き込まれて行く。番組初めから、一気呵成に時代を過去に持って行く演出が良いが、「過去」といっても、古臭くならず、説教的にせずに、番組を聴かせてくれる。また、トークのテンポの速さが、「もっと聴きたい」という気持ちを引き出してくれる。さらに、二人のトークは、

お互いを乗せ合う波長がとても心地よく、特にタイムトラベルの箇所は、長時間でも聴いていただける楽しい仕上がりだった。

角田委員

昭和を知っている世代として、とても楽しかった。バカボン鬼塚の新しい魅力を発見できた。バカボン鬼塚は、K-MIXのワイド番組で、若手の女性アナウンサーとのコンビが多いが、この番組のような、男性2人のコンビは、くどさも残らず、ちょうど良い元気の良さが出ていると思われる。Happyだんばらは、自分の立ち位置が、昭和をよく知っている世代なのか、少し昭和を知っているが平成中心だった世代なのか、平成以降しか知らない世代なのかをより明確にすると、聴き手も、迷わず、番組に馴染めるとと思われる。声質が良いので、これからも持っている魅力を活かして行ってほしい。

木宮委員長

2人のパーソナリティも、番組のコンセプトも良い評価を得たと思う。自分の経験談を前面に出すことができるトークがバカボン鬼塚の生き生きした雰囲気を引き出している。Happyだんばらは、この番組では、まだ、未知数ではあるが、本日の様々なご意見からも、今後の可能性を感じる。

過去を振り返る番組は、いずれ、要素（ネタ）が尽きるので、いつまでも続けることができないし、当時のブームや品物、風潮を紹介するコンセプトはテレビの方が向いていると思われる。しかし、音楽をテーマの中心にしたり、生放送での写真募集等が出来れば、ラジオ向きの要素も出てくると思う。月1回の1時間というだけではなく、今後30分の番組や、ワイド番組のコーナーという展開も十分にあり得る企画と思われる。

会社サイド

番組のコンセプト、パーソナリティの魅力、番組の聴きやすさといった、これからの新しい展開が期待できる多くの項目を頂戴しました。今後の番組編成時に、また、クライアントへのアプローチに是非、活かして行きたいと思います。

以上

次回開催日 令和6年1月9日(火) 16:00~18:00を予定

番組審議会委員長
木宮敬信